

電腦画像細胞 Image Brain Cell

笠尾敦司 ATSUSHI KASAO

Department of Design

電腦画像細胞はデジタルカメラで撮影された電子画像と画像リンクデータベースを組み合わせたホームページの作品である。コミュニケーションの視覚化を狙った作品であるが、日常的なビジュアルデザインに対する感受性を高めるツールとしても使えることが分かった。

URLは[HTTP://www.dsn.t-kougei.ac.jp/ibrain](http://www.dsn.t-kougei.ac.jp/ibrain)。



特 徴

インターネットをコミュニケーションメディアと考えた場合の本質的な要素は、画像が扱えること、ハイパーリンクが使えること、そして、インタラクティブにコンテンツを変更できることの3つであると考えられる。これら3つの要素を最小限の構成で組み合わせた作品が電腦画像細胞である。日常生活の中で気になったものをデジタルカメラで撮影し、その画像をホームページに載せる。載せられた画像のうち連想関係にあるもの同士に連想リンクを張る。連想リンクは一言のコメントが付けられると共に、ホームページ上でダイナミックに付け替えできるようになっている。しかけはこれだけであるが、このシンプルな構成で人間同士のコミュニケーションを視覚的に表現することができ、且つ人間同士の理解を深めるツールとしても利用できる。

画像電腦細胞に参加する人は、まず、日常的にデジタルカメラを持ち歩き自分が気になった物を撮影するように心がける。そして、それらを Web サーバーにアップロードして時系列にリンクを張る。これを1次リンクと呼ぶ。次にブラウザでそれらの画像を見ながら連想される他の画像にリンクを張る。これを連想リンクと呼ぶ。人間が注目した画像はその人の意識が集中したものであるし、人間の思考はシナプス相互の結合で表現されていると考えられることから、ある人が作った連想リンク集はその人の興味や思考のパターンを表すものと考えられるだろう。従って、第三者が連想リンクを辿ることで、画像リンク集の作者の思考を効率的に理解することができるはずである。さらに自分の画像にリンクを張るだけでなくお互いの画像に連想リンク（これを相互リンクと呼ぶ）を張り合うと、共通の興味に係る画像には多くの相互リンクが張られることになる。従って、相互リンクが密集している場所を見つけることで共通の興味を見つけ出すことができる。自分自身のリンク集を自分だけが見たとしても、画像リンク集には過去の視覚も保存されているので、普通なら忘れ去られてしまうことにも気づくようになり、身の回りの事物に敏感な体質になれる。普段なら気にも止めないデザインに注意が向き個人的な発見がなされるようになるため、デザインの教育ツールとしても利用できる可能性がある。たとえ気づいたことが小さな事であろうと、自分で気づくということには大きな意義がある。私自身このツールを用いることでいろいろな発見をすることができ、いくつかは教材として用いている。また、このホームページではそれらを簡単な知識としてまとめたものも参照することができるようになってる。

利用方法

1. 電腦画像細胞のブラウジング

自分でデジタル画像を提供しなくても、すでにある画像を市販の Web ブラウザーでブラウジングすることができる。URL は [HTTP://www.dsn.t-kougei.ac.jp/ibrain](http://www.dsn.t-kougei.ac.jp/ibrain) である。

好みのエントリーポイントからある特定の人の画像リンク集に入るか、または、ひとつの知識としてある程度まとめられた画像集を選択する。画像リンク集に入ったら、あとはテーマに沿って、または、気の向くままにリンクを辿りながら画像を次々に参照することで、視覚の追体験ができる。さらに、人が登録した画像であっても個々にリンクを張ることができるので、自分の画像がなくてもリンクのみを登録し、パーソナルなリンク集を作ることができる。リンクはブラウジングページのフォームに書き込むことで容易に行うことができる。

2. 画像のアップロード

ここでは、自分でデジタルカメラを用いて画像の登録を行う方法について述べる。画像は電腦画像細胞に参加する人毎に分けて保存されている。例えば A 氏の撮影した画像であれば、一つの電子画像につき大きな画像（300×400画素程度、ファイル名は最初に img を付け img****. jpg とする）とサムネイル用の小さな画像（96×72画素、ファイル名は最初に thm を付け thm****. jpg とし、****の部分には img ファイルと同一とする）を作り、それぞれ、<ftp://www.dsn.t-kougei.ac.jp/ibrain/A> という名前のディレクトリ下の image ディレクトリーと thumb ディレクトリーに FTP などを利用して入れる。画像ファイルは Jpeg 形式とする。自分のフォルダーがない場合は管理者に作ってもらるか、<ftp://www.dsn.t-kougei.ac.jp/guestimage> という名前のフォルダーを利用する。このフォルダーは共同で利用できるように作ってある。FTP の際には anonymous のアカウントを利用する。誰でも変更が可能なので、画像は手元のコンピュータにもバックアップをとっておく必要がある。

3. 1次リンクの作成

まず撮影された時間順に1次リンクを張る。リンクを張る作業はホームページ上で行うことができる。ブラウザを立ち上げ、<http://www.dsn.t-kougei.ac.jp/ibrain> を表示する。電腦画像細胞をク

リックし、次に、適当なエントリーポイントをクリックして電腦画像細胞のブラウジングページに入る。全ての処理はこのページで行うことができる。1 次リンクを張るにはページ内の白い枠内に画像の情報を書き込み「submit」ボタンを押すことで完了する。入力する内容は 1. リンクもとの画像のフォルダー名（A 氏なら A または guest）2. リンク元の画像名（ここは img****. jpg のうち共通の****. jpg の部分を入力する。）3. リンク作者名（A 氏であれば A. ゲストであっても自分の名前を入力する。但し入れる名前は 1 つにする。）4. リンク先フォルダー名5. リンク先ファイル名それぞれを 1. と 2. にならって入れる。連想を誘った部分については「1 次リンク」と入力する 6. このリンクについての気の利いた一言を入れて、最後に「submit」ボタンを押して完了する。空白の欄があると入力できないので必ず全ての欄に書き込む必要がある。書き込みが終了すると、今作られたリンクが表示される。

4. リンクの作成

作り上げられた 1 次リンクはリンクを入力したブラウジングページから辿ることができる。表示されているリンク先画像をクリックするとその画像についての全てのリンクが表示される。またそれぞれのリンクにある英文字 A をクリックすると同一のリンク作者のリンクのみを表示する。これを繰り返すことで、順にリンクを辿っていきける。このテーブルの上にある「逆リンク」ボタンをクリックすると現在表示されている画像にリンクを張っている画像へのリンクが表示される。ここでも、画像をクリックすると逆順にリンクをさかのぼることができる。正方向のリンクに戻りたいときは「正リンク」ボタンをクリックする。リンクを作成するには正リンクのブラウジングページからおこなう。すでに作られたリンクをたどりながら新たにリンクを作成する事ができるように作ってある。いろいろな人の 1 次リンクをたどりながら、自分の画像と連想がつながるものを探す。自分の画像または他者の画像の一覧を見たい場合はそれぞれに対応する名前をクリックする。すると、全画像のサムネールとリンク作者名、画像名の一覧が別のウインドーに表示される。また、サムネールをクリックすると対応する画像が元のウインドーに表示される。このようにして、連想でつながる画像が見つけれたら、リンク作者名（たぶんあなたの名前）、リンク先画像の撮影者の名前（画像が入っているフォルダーの名前と同一）、リンク先画像の番号、連想を誘った部分、気のきいた一言などを入力して「submit」ボタンを押す。後で修正したい場合には、ブラウジングページで修正したい画像の日をクリックしてリンク修正ページに入る。リンク作成の際にはパスワードは必要なかったが、リンク修正、削除の場合にはパスワードが必要になる。

1 次リンクは時間的な流れが表現されるが連想リンクでは自由な連想によりリンクされるため撮影された時間とは関係なくリンクが作成される。ただし、原則として他者の画像から自分の画像にリンクを張るようにする。人間同士の関係性を考えた場合も連想の先が他人の記憶になるのは不自然であることから、このようにしたが、必ずしも守る必要はない。

5. プロジェクトリンクの作成

プロジェクトリンクとは数人で一つのテーマに基づいたリンクを作る場合である。この場合には、お互いの知識を総合して一つのもので作り上げるため、他者から自分にリンクを張るだけでなく、自分から他者に張る必要も出てくる。リンク作成の手続きに関しては全く連想リンクの作成と同じであるが、連想を誘った部分についてプロジェクト名を入れておく。現在、地図の知識、一つの広告のバリエーションの紹介などが作られている。

おわりに

学生と共に利用した感想として、単なる思考を視覚化するだけの作品ではなくかなり多方面への利用の可能性が見えたように思う。例えば、視覚情報の整理、グループウェア、さらには相互理解を深めるためのツールなどである。

今後はさらなる可能性を探るという意味からも利用者と共に作り上げていくことが重要であると考えているので、多くの人がこのサイトを訪れ、その感想を送っていただければ願っている。また全国各地にサーバーを増やすことで、全国的な視覚画像のリンクデータベースを作り上げたいとも考えているので、協力していただける方にはぜひともご一報いただける様お願いするしだいである。